

豊前志

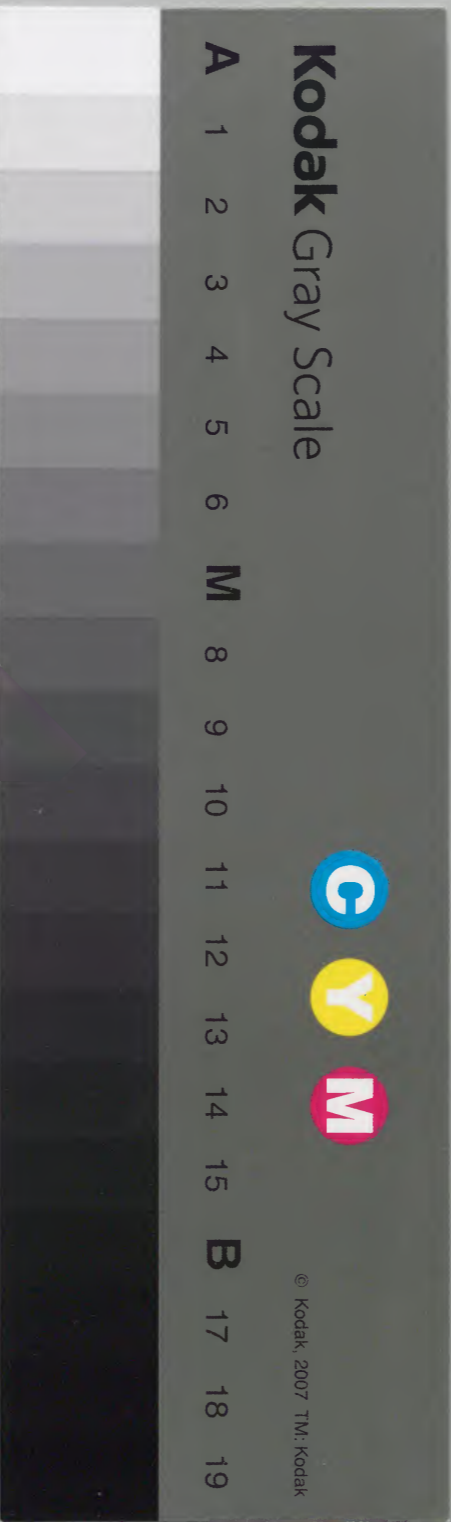
京都郡 仲津郡
築城郡

四五六

庫文閣内	
七六函	二九三七五號
九架	四冊
	和書類

内一〇四九號

内閣文庫	
番號	和 29375
冊數	4 (2)
函號	176 60



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a rectangular stamp impression.

尾形半平

紙敷

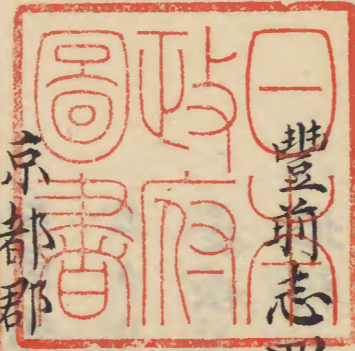
七枚
内之枚
半
枚

尾形

豐前志四之卷

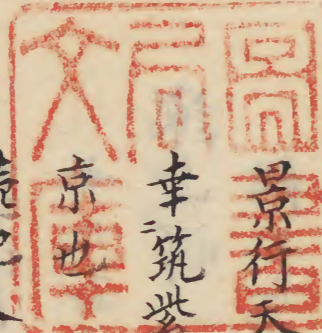
内一〇四九號

渡邊重春著



京都郡

卿四村七十四



幸筑紫到豊前國長峽縣與行宮而居故號其處曰

結紀天平十二年藤原廣嗣ノ乱ノ条ニ云豊前國京都

郡國長太宰史生從八位上小長谷常人著前二隻逃

竄野裏

重春云板本ニ領ヲ鎮ニ作ルハ非ナリ今ハ
宮崎本ニ從ヘリ

吳異記云膳臣廣國者豊前國宮子郡少領也

和名鈔云豊前國京都美夜古

或記云細川家ヨリ御引渡ノ高京都郡三萬千百八十九石八斗八升八合九夕

諫山郷

按スルニ津熊村ノ田字ニ諫山ト云アリ又外記局記ニ京都郡賀田郷平井寺檀越不知山長松ト云人見エタリ今南原村ノ田字ニ長松堀ト云アルハ不知山長松ノ住シ地ニヤサレハ南原集興原村ノ近隣ヨリ檢地村ノ方角マテヲ廣ク諫山郷ト云シ成ヘシ

本山郷

此名廢レテ何處トモ不知今郡ノ北西方ニ山口村アリ是ハ本山ニ對ハタル名ニハ非ルカ若然ル時ハ等覺寺福丸村ノ辺ヨリ稻光鋤崎ナトノ村々ニテニソ廣ク云シナラム

新田郷

今ハ村名ト成テカムダト唱フハ音便ニ崩レタルナリカダト云ゾ正訓ニハ在ケル具ハ和名鈔ニ陸奥國刈田葛讚岐國刈田葛ト見エ又外記局記ニ豊前國京都郡賀田郷トモ見エタルヲ

以テ知ヘシ神名帳ニ若狹國遠敷郡新田比古神社新田比賣神社ト見エタリ

高来郷

今ハ村名トナレリ外記局記云京都郡高来郷

吉田庄

定村翁云吉田庄ハ吉田連古麻呂豊前介ニテ在シ
時壑田セシ處ナルヘシ姓氏録ニ吉田連遠祖益
兼津彦命頭中有贅三岐如松樹國瑞松樹君
トアリ今テ吉田庄ノ内稗田村ニ松樹屋敷ト云フ
アルハ縁アルヘシ

碩田國

按スルニ景行天皇紀ニ冬十月到碩田國其地形廣大ソノノミカタヒラカシク
亦麗イカリシ因名碩田也碩田此云於保岐陀到速見邑有女人曰速津
媛為一處之長其聞天皇車加賀而自奉迎之詔言茲
山有大石窟曰鼠ネズミノイハヤト石窟有二土蜘蛛住其石窟一曰
青二曰白又於直入縣祢疑野有三土蜘蛛一曰打猿
二曰八田三曰國麻呂是五人並其為人強力亦衆類
多之皆曰不從皇命若強喚者興兵距馬天皇惡之不
得進行即留于来田見邑權興宮室居之仍與郡臣
議之曰今多動兵衆以討土蜘蛛若其畏我兵勢將
隱山野必為後愁則採海石榴樹作推為兵因簡

猛卒殺兵推以穿山排草襲石室土蜘蛛而破干
稻葉川上悉殺其黨血流至踝故時人其作海石榴
推之處回海石榴市重春云板本曰亦血流之處曰田
血也復將討打援徑度祢疑山時賊虜之矢橫自
山射之流於官軍前如雨天皇更返城原而卜於
水上便勤兵先擊八田於祢疑野而破爰打援謂不
可勝而請服然不聽矣皆自投洞谷而死之重春云
土記云宇祢備野可志婆良能宮御宇天皇世偽者土蛛
此人恒居穴中故賜賊号曰土蛛御巫主云土蜘蛛ハ土公
ニテ其土ノ君長タルモノヲ謂フ異類ニハアラスキク通スル例
兼理媛アリシモ通スル例豊組野豊雲野アリ委クハ太神宮
本記帰正鈔ノ宇治土公ノ条ニ并セリト云ヘリ帰正鈔ハ見不

トイカ有ラム古史傳ニハ皇令ニ從ハス岩窟土音ナトニ住
テ人ヲ害ヒ殘暴梟師ヲ蜘蛛ニ准ヘテ如此號ケタリト云レ
タリト云レタリト見エタル地名トモヲ旧說ニ豊後ト
此說穩ニ聞ユ云フハ非ナリ是ハ長峽縣今云フ所
コリ碩田國ニ到マシ次ニ速見ノ邑ニ到坐賜ヘル事
ナルヲ豊後ナル郡名ノ碩田速見トセムニハ先速
見ニ到マシ次ニ碩田へ到坐ト無クテハ地理ノ合ハ
サルヲ然ナキヲ以テ考レハ惣テ豊前ナル事疑
ヒナシ古史傳ニハ古クハ速見郡ニテヲカケテ碩田國ト云
ニ確乎ニ殘然ラハ碩田國ハ何処ソト云ニ確ニハ定
レルヲヤ難ケレト今行事村ノ近境ヲ北郷ト云是才ホ

キ夕ノ畧言ニハ非ルカ但南郷ト云モアレハ然
ハ聞エネト若クハ碩田ヲ北ト畧キテ云ヨリ
其ニ對ヘテ南郷ノ稱ハ出タルニハ非カカ又按
フニ稗田村ニ大分ハ幡アリ是ハ彼社ノ下ニ云ル
如ク筑前ノ大分村ヨリ勸請セル故ノ社號ナ
ルヨシナレト社傳ノ誤ニテ此ノ地名ナラムモ
謀リ難シ豊後ノ碩田モ大分ト書テオホキ夕
ト訓ナリ按フニ先年伊勢國山田里ニテ寫シ
タル當國ノ圖ニ仲津郡ノ内涼都郡ニ大北村
アリ此ニテモ有ナン歟但シ此圖今テノトハ郡畧

村名ナト惣テ大ジク異ナレハ信用難キ事無キ
ニシモアラネハ決ク此地トモ定難シ帆足萬里ハ
下毛郡ナル沖代オキタナリト云レト是ハ土蜘蛛ヲ討
賜ヒシハ豊後ト思ヒテノ説ナリ若豊後ト為
ハ長峽縣ニ行宮ヲ建賜ヒシハ何ノ要トカセム
且其処ヲ京トサヘ云ヲ思ヘハ行宮ニ在坐シ
事暫シノ間ニ非ス其ハ土蜘蛛ノ鼠石窟今テ云フ
ノ險阻ニ據テ防禦タリシカハ頗ルニ誅難
カリシカ故ナリ彼是ヲ併考テ我豊前ナル
事ヲ思定ムヘシ但シ豊後ニモサル古蹟ノ此

彼聞ユレハ都ニサル事ナシトモ云ヒ段千難シ
サレハ彼ノ風土記ノ説モ一ノ傳トシテ有マヘシ
長峽縣

事ハ前条ニ出セリ扱今ハ長尾村トテ一村ノ
名トナレト上古ハ御所谷ノ辺マテヲ廣ク呼
シ大名ナルヘシ

速見邑

事ハ前ニ云リ今長尾村ニ速津媛社アリ此辺
ヲ古クハ速見ト云シニヤ或人ハ此神名後世ニ
作レルモノナリト云リ如何アラム宇都宮記ニ

宇都宮家臣速見新六ト云人アリ此ハ必當國ノ
人ニテ地名ヲ家名トセシトソ所思ル此項ニテハ
猶此名アリシニヤ天書ニモ豊前國速見ト見エ
後ノ惣ナカラ本朝通記ニモ豊前ト見エタリ

下田

定村翁云統紀ニ豊前國京都郡大領外從五位上栲田
勢磨將兵五百騎云々又四冊ニ豊前國京都郡人正六位上栲
田勝愛比賜姓大神栲田朝臣三代實録云天神栲田朝臣ト見エ
タル栲田ヲ畧言ニシモタト云ナルヘシ

菩提 飛松 御手水 重春

内ニ名水アリ景行天皇ノ宮近ク地ナレハ此水ヲ御手水ニモ物シ賜ヒ
シヨリノ名ナルヘシサルハ隣村ニ厨子今ハ回師ト書リ村ア此天皇
ノ御厨子ノ有シ地ナリ 圖師 重春云御厨子村ナルヨシハ上ニ云ルカ
ケムモ思フヘシ 如シ大和國十市郡ニモ御厨子村アリ御
厨子ノ一ハ大炊式ニ御厨子所西宮記相撲
召合ニ御厨子所供御膳トアリ

新町 上野 宮原

長川 浦川内 岩熊 池田 箕田 上田 平尾

津積 定村翁云此村上二大池アリサレハ此池ノ堤ヨリ出タル名カ 久保 上中

ニテ此村ソ津ノ海ナリケム

西谷 大谷 稗田 上下○重春云古史成文百四十段ノ傳

紀ニ見ヘタリ其本家ハ此地ニ住ケム故ニ即チ其地名ヲ復性
トシテ後女ノ稗田公ト稱シテ便ニカセテ直ニ稗田トノ稱ル
ナラムトアリ後女君ハ宇受賣命ノ具支神後田毘古神ノ御名
ヲ負テ其ヲ後ニテ継々傳ヘタル氏ナリ扱後田毘古神ノ後田
ハ出雲國ノ地名ナルカ此神伊勢國ニ到坐テハ其聖域ヲ即テ又
依那縣那那依ト云ヨシモ師説ニ詳ナリ然ルニ此京都ナル稗田村ニ
定村ヲ名家トセルモアルハ後女君氏ノ支流ノ人ノ住メルヨリ負ル村
名ニヤ有ラム○神名帳云武藏國荏原郡稗田神社○古事記序ニ
云姓ハ稗田名ハ阿礼龍頭ニ弘仁私記ヲ引テ云天細女命ノ後也○
記傳云今大和國添上郡
ニ稗田村アリ

草野 中川 檢地 上下 津

熊 上中 前田 延永 二塚 長木 黒田 上中

出雲風土記云意宇郡黒田駅土體也黒故云黒田○和名鉸云
大和國城下郡黒田多留 下崎 長尾 高来 入覺

長音寺 鳥井原 鋤崎 吉國 黒添須

磨園 八田山 福丸 恒松 矢山 徳永

法正寺 谷村 山口 稲光 南原 光國

蒨田 馬場 雨窪 行事 片島 上下 濱町

岡崎 新津 上下 與原 葛川 松山 二崎 集

尾倉 堤

以上七十四箇村ナリ扱黒田村ノ田ノ字ニ別府
ト云アリ是郡家ノ蹟ナトニヤ兼清貞國則

宗成定行守行房國貞綱等ノ屋敷ト云田ノ字モ
アリ大領小領ナトノ名ナラハモ知ルヘカラス

新田駅

兵部式ニ此駅ニ馱馬五疋ヲ置ヨシ見エタリ川田
ノ事ハ川田卿ノ下ニ既ニ云リ

大分八幡宮

下稗田村ニアリ新田義氏神託ヲ蒙リ馬ヶ嶽ノ
城ヲ築シ時筑前穂波郡大分村ナル八幡宮ヲ勸
請セリト云前国大分宮肥前国千栗宮肥後国藤崎宮薩
摩国新田宮大隅正八幡宮
以上是謂五所八幡別當

日吉社

今ハ未社ト成テ甚小祠ナレト吉社ニテ勸請ハ室
龜延曆ノ頃ナリト云如何アラム新田義氏参籠シ
テ祈シ事アリトソ

大原八幡宮

大久保村ニアリ大原足不命ニ八幡宮ヲ併祭レ
旧事天孫本紀云大原足不命筑紫
リ豊岡々造等祖置部与曾ノ命之子今田字ニ八幡免
ト云アリ神田ナルヘシ

天満宮

黒田村ニアリ相殿ニ八幡宮天疫神鎮坐リ往昔神

殿度々鳴動セシカハ文明ノ中綾塚敬久ト云人勅額
スラ願奉テ神殿ニ献リケレハ忽静リタリト云其扁
額ノ御文ハ表ニ 三社和光衷ニ右願者朝野安寧國
家平穩願主如意人民豊饒 千時文明十四年壬寅
八月廿三日 願主綾塚敬久敬白トアリ横一尺二寸三
分 竪一尺八寸 アキキトソ文明ハ後土御門院天皇
ニオハシマセリ此社ニ應永九年ノ鐘アリ銘文ハ豊前
遺文ニ記スヘシ

勝山權現

黒田村ニアリ飯ガ岳權現ヲ勸請セリ旱魃ノ時雨ヲ

祈アレハ必驗アリト云

飯ヶ嶽權現

御清手水村ニアリ

正頭八幡宮

長尾村ニアリ長峽縣主姓名ヲノ靈ニ八幡宮ヲ合

祭レリト云此宮所即縣主ノ家所ナリシ由ニテ石

垣ナト今テモ儼存リ又村内ニ正塚ト云アリ是縣

主ノ墳ナリト云傳ヘタリ 今田字ニ紫田
ト云アリ昔ノ神田ナルヘシ

百大夫社

同村ニアリ景行天皇ノ祭リ賜ヒシ神ノ社リト云
ヲハ御紀土蜘蛛ヲ誅ヒ賜ヒシ祭ニ是時禱神則

志我神直入物部神直入中臣神三神矣ト見エ
タル是ナルヘシ宇佐宮ノ末社ニモ百大夫殿アリ
祭神ハ同キヤ異ナリヤ

國崎八幡宮

稻光村ニアリ國前臣祖菟名手ニ八幡宮ヲ合祭
シリ菟名手ハ景行天皇紀熊襲ヲ討給フ条ニ
九月甲子朔戊辰到周芳娑磨時天皇南望之詔
郡卿曰於南方烟氣多起必賊將在則留之先遣
多臣祖武諸本國前臣祖菟名手令察其狀云
ト見エタル是ナリ今正月五日ニ武者役祭ト云ア

ルハ軍ノ先鋒ニ立レシ人ヲ祭レルナレハ成ヘシ月ハ
異ナレト九月戊辰ハ五日ニテ祭日ト同日ナリ扱
往昔ハ十二番ノ流鑄馬アリシトソ其次第ハ一
番 小次郎九 二番 預リ所 三番 筒井 四番 宮司殿 五
番 下神五郎 六番 代官 七番 須磨園 八番 原之名
九番 田淵 十番 吹園 十一番 小井赤 十二番 手イヤシ
ナリ又十一月卯ノ日ニ鎮在祭アリ神官三十二ノ
御膳ヲ献リシト云リ其次第ハ一番 預所 二番 赤坂
侍 二内侍 三番 乙丸 四番 鬼丸 五番 小井 六番 須廣
七番 上神五 八番 ミヤジ殿 九番 吹園太 十番 須廣
郎筒井

揚田ツ、
 十一番 下神五郎
 十二番 平イシ
 十三番 安次
 十四番 飛蘭
 十五番 キネラサ
 十六番 早田
 十七番 東所別當
 十八番 笛ノ座
 十九番 トウ蘭
 ナリ

宇原宮

馬場村ニアリ苧田庄十一村ノ氏神ナリ今日ニ染
田ト云アリ此社 外記局記ニ豊前國京都郡雨米ノ糸
ノ神田ナリシカ
 二字原庄見エタリ

小倉宮

與原村ニアリ鷓鴣草菅不合尊ヲ祭レリ扱日本
 後紀稿延曆廿四年四月甲辰令諸國奉為崇道
本

天皇建小倉納正稅卅束并預國忌及奉幣之例謝
 怨靈也トアルヲ類聚三代格ニハ奉崇道天皇諸
 國造正倉收納正稅下見エタリサレハ小倉正倉ハ
 同意ナリ日本書紀ニ比倉トアルモ同シ解ハ田河郡
ノ糸ニ既 此處ハカノ小倉ノ在ニハ後ニ社地ト
ニイハリ 神名帳山城國乙訓郡
 セシニソアラム ニ小倉神社ト云アリ

寶積寺

菩提村ニアリ上古ハ稍大寺ナリシトソ室永
 ノ際小倉延命寺靈濟君命ヲ受テ其旧蹟ニ
 寺ヲ建テ虚空藏菩薩ノ像ヲ置ケリト云寺

ノ上ナル竹林ノ中ニ四十九院ノ趾アリ又田字ニ
大門屋敷彼岸田ナト云モアリ

曼陀羅寺

下久保村ニアリ元龜三年開眼供養ノ書アリ
文云當麻曼陀羅之尊像一像於洛陽西山淨土
根元之靈地元祖法然上人之御廟本寺光明寺奉
第廿五代住持顯空上人開眼供養者也出元龜三
申年八月七日顯空書之安置尊像者九州豊前國
京都郡之内久保庄黒水石京進所者也ト見エタリ寺
跡ハ曼陀羅ヲ本尊トセルニ拠リ曼陀羅ノ丁ハ曆代編年
集成ニ天平神護元年

願光寺

福丸村ニアリ行基ノ開基ニテ本尊藥師ハ行基

ノ作ナリト云往昔ハ七堂伽藍アリシトソ其礎石
尾ナト今モ田中ニ存レリ扱行基ノ開基ト云傳ハ以
ル寺諸國ニ甚多カリ其ハ統紀ニ天平勝宝元
年二月丁酉大僧正行基和尚遷化和尚ハ茶師
寺僧俗姓高志氏和泉国人也周遊都鄙教化

十一月亦七日右大臣從一位藤原豊成薨後人号ニ難波大臣又
称横佩大臣此大臣ノ号中將姫織當麻曼陀羅時之願主也ト
アリ古今著聞集ニ大炊天皇ノ時横佩大臣藤原尹亂トイフ賢知
臣侍リケリカノ大臣ニ鐘愛ノ女アリ云云此下ニミシタラノ一アリ畧之
元亨釈書ニ見エタリ大日本史藤原豊成公傳ニ云々中將姫為尼居當
麻寺ト云此寺ニ一莖ニ花ノ蓮ヲ藏メタリ舒明天皇皇極天皇紀等ニ
モアリ 劔池ニ一莖ニ萼ノ蓮生タル事見エタリ

衆生親率弟子於諸要害所造橋築陂聞見所
乃咸來加功不日而成百姓至今蒙其利焉時人
号曰行基菩薩留止之處皆建道^場慶時年八十
ト見エタレハナモ有ルヘシ

霜田菴

下田村ニアリ天永元年ノ經筒アリ

等覺寺

山口村ニアリ天平六年奈良東大寺息空ノ開
基ナリト云應永戰覽ニ等覺寺座主亮賢
ト云僧見エタリ

同上宮白山權現講堂本尊十一面觀世音菩薩
左峯小白山大行事 右峯老翁宮大己貴命
北山王權現并廿一社 下宮天形星御供堂行
者堂鐘樓仁王門戸取明神社地藏堂
往昔ハ子院三百許有シト云今ハ四十六坊
存レリ

明護院

谷村ニアリ寛治元年根來寺覺銀ノ開基ナリ
古傳ノ如意輪觀音多門持國ノ像ハ寛文十
二年小倉開善寺ニ遷ヤリ此ハ赤松岡心ノ歸

依佛ナリト云 今田字ニ惣門古門油
田塔ノ前ナド云アリ

西恩寺

馬場村ニアリ開基ハ何トモシニス往昔ハ稍大寺

阻ナリケム今田ノ字ニ奥之坊中ノ坊門前ナト云アリ慶安ノ際僧傳佐再建セリ扱西明寺 此条

諸國ヲ巡覽セシ時此寺ニ来テ暫ク居リ五

輪ノ塔ヲ建タル由寺ノ古記ニ見エタリ其石塔

今教ノ内ニアリ因此教ヲ録倉ト云 大日本史北条

既解職恐諸国史或有挾私害民者身自羸服陽為遊僧

間行四方潛察風俗有人抱冤結者就問事狀

因云此村ノ田字ニ彌勒寺ト云アリ主税式ニ凡太

宰彌勒寺燈分料以豊前國地子稻三百束毎

年充之ト見エタル料ノ田ナリシニヤ

平清経墓

此寺ニアリ清経柳浦ニテ入水セシニ其屍コノ

処ノ浦ニ打寄タリ故土人葬テ五輪ノ塔ヲ建

タリト云

宗泉寺趾

御手水村ニアリ往昔ハ飯嶽權現ノ宮寺ナリ

平シト云寺趾今ハ田ト成レリ近頃別処ニ小菴

ヲ興テ其趾ヲ継リ寺號ハ村内ニ名水ノアル

二松ノリ馬嶽城ノ陣鐘アリ
平井寺趾

外記局長保元年三月七日庚申記云太宰府
解云管豐前國京都郡雨來事副進彼國解文
一牧同國京都郡解文一牧彌勒寺講師長祐
牒狀一枚雨來一畧右得彼國去年十二月廿
八日解狀府政所今月廿五日下午文同廿六日
平亥時到來備安樂寺別當法算大法師令申云
今月上旬豐前國部内有雨來之瑞是則彌勒
寺講師長祐法師之所申也中牒送長祐法師

爰同廿七日返牒今日到來備今月廿六日衛
牒今日到來抑此雨來事以十一月廿一日於
宇原庄前菑野庄檢校俗名早部信理法名寂
性申云京都郡高來郷重春云下二卿稱賀田寺曰
平井寺トアレハ高來ハ誤ナ
シ平井寺乾方居住法師私宅以去九月晦夜
雨米夜中驚見白米既多明且出見頗以減少
但宅主法師他行園守女稱申如是者中今依
國府旨檢案内以彼日夜賀田郷所立平井寺
住僧仁感住房門前所雨白米初如小豆日闌
之後頗以減少似米破一村下人或取食爰

仁感他行之間彼園守女奇異僅所拾採二三
合許也仍以十月十一日相分郡司良親同時
僧寂性爾所知之寺檀越椽不知山長松令見
之重春云南原村ノ田次分給小々云云良親寂性
字ニ長松堀アリ等所得米如灰消失椽不知山長松所得米總
以是仍副郡解進上如件者件雨米椽不知山
長松付封進國守光輔披見更封光輔名字付
使椽蠟部為範進上中國名豊前郡號京都卿
稱賀田寺曰平井寺可謂祥瑞相副郡解等如
件者非啻天地吉祥之異瑞兼得洲郡村邑之

嘉名祥瑞之事不可不申下畧

重春云此寺何処ニアリシカ賀田卿ハ苜田卿ナル
シ國ハ名豊前郡ハ号京都ナト稱云ニ附テモ
苜田ヲ賀田ト取直シテ云ル成ヘシ然レハ其寺
趾苜田卿ニ有リヤトテ時々搜索シニ片島村
ノ田ノ字ニハイセム寺ト云アリ是平井寺ヲ
誤レル物ナルヘシ田ノ字ニハ如斯ル謬甚多カ
リ且地藏免鐘撞田寺田比丘尼屋鋪ナト云
田ノ字モアレハ此処ニソ有ハキ

十鞍山

十 圖師村ニアリ元暦之際平氏此山ニ城ヲ築キテ籠リケルニ緒方三郎来攻ケレハ馬鞍十ヲ土中ニ埋テ遁去リ又故十鞍山ト云ノ説アルハ甚々強説ナリ案フニ山ノ麓十トニ此倉ノ有シ故ノ名ナルハシ此倉ハミヤケ或ハミクラト訓ナルヲ御鎮坐本記ニ此倉小男童笛生琴生トアル此倉ヲトクラト訓リ然レハ景行天皇ノ行宮ニ座シ時此倉ヲ建ラレシ所ニモ有ヘク然ラテモ此倉ノ在ムイハ論ヲ待スナム

神山

下崎村ニアリ三女神ヲ此山ニ祭リ湧出ル清水ヲ御靈トシテ神殿ヲモ造ラス申殿計建タリシカ後今ノ村内ナル社地ニ遷奉レリ故神山ト稱フトソ一名ヲ茶臼山トモ云申殿ノ跡ハ今平床ト云テ石垣存レリ

御所山

興原村ニアリ南北二町東西一丁アリ四方ニ堀アリ平地ニ毘沙門天社アリ又此山ノ北方四丁許ニ番塚ト云アリ土人ハ景行天皇ノ御所ノ

趾ニテ番塚ハ番所ノ跡ナリトイヘト信難シ彼
行宮ノ蹟ハ御所谷ナル事云モ更ナリ

八田山

山口村ニアリ事ハ碩田國ノ下ニ出シツ土蜘蛛ハ
田ノ住シ山ナリ

御所谷

津積村ニアリ景行天皇行宮ノ跡ナリ事ハ碩田國ノ下ニ
出シ出シ諸此所ノ地理ヲ委細ク考ルニ上古ハ今ノ行
事川ノ川上流末村ノ近境ニテ惣テ入海ナリシ
力數百年ヲ經テ海モ漸クニ浅ク成以テ行ニ

ハニ次第ニ田畑トナシテ今テノ如クハ成レリ何ト
ナレハ此川上一里許ニ大谷村ト云アリ此村ニ舟岡
山碓塚ナト云海ニ着タル名アリ又井ヲ掘ルニ
蠣貝或ハ舟板ナト土中ヨリ出トソ又流末ト云
村名モ川尻ニテ水ノ海ニ入ル故ノ地名ナルヲ
思フヘシ仁徳天皇紀ニ流末故天皇ノ御舟ノ着シハ
流末村ノ辺ナルハタツ所思ル三代格ニ豊前
國草野津ト云見タルハ行事川ノ流末ナル
艸野村ニテ其頃ハ船ヲ着ルニ便善シテ專
ラ公私ノ船ノ着シ処トシラルサレハ川上ナル

流末村ノ辺モ上古ハ御船ヲ繫カセ賜フニ便宜
ヤ可カリケム又長峽縣ニ到リシ賜フニモ甚
間近ク敵地ヲモ不經シテ直ニ到聖ヘキ処ナリ
諸行宮ノ在シ処ハ今御所谷ト云其跡ニ登立
監レハ土蜘蛛ノ住シ鼠窟今云フ青竜窟ハ正北ニ當
リテ遙ニ眼下ニ見下シテ行宮ヲ建賜ヒシハ
實ニ宜ナリト所思ユル所ナリ扱具宮地ハ絶
頂平地ニシテ南北一丁東西二十間アリ其処
ニ礎石二十並ヘリ其周回東西五間南北四
間半許ナリ又中ノ御門東御門西御門ト云ア

リ中御門ノ石垣ハ東方長五間高三間西方九間
高三間計ナリ此処ニ石樋ヲ懸テ山水ヲ引リ
此御門ノ前ナル大池池ハ中昔堀シ物ト見エタリノ提ノ下ノ田
ノ字ヲ門前ト云ヒ又ニノ坪三ノ坪八条ナト云
モアリニ坪三ノ坪ハ二条三条ト云フカ如ク聞ユ
東西ノ御門ハ石垣崩レタリ扱中御門ヨリ行
宮ノ蹟ニテ一丁四十間西御門ニテ二丁四十
門東御門ニテ四間餘アリ又山ノ周回四方ニ一
里カ程石垣アリ或ハ崩レ或ハ其形ノ存レルモ
アリ抑上代ニハ御ミアラカ在殿ニハ礎ヲスエス式ノ祝

詞トモニ下都磐根爾宮柱大敷立トアル如ク地
ヲ深ク堀テ柱ヲ建所謂ル堀立家ノ如クナリシ
ニ今行宮ノ跡ニ礎石ノアル事甚々疑シ此ハ中
昔此地ニ城ヲ築シ事モ物ニ見エス土人ノ口碑ニ
モ存レル事ナケレハ必地頭ナト云類ノ者ノ要害
ヲ頼テ城メカシキ物ナト築キテ住リシモノナメ
リ借石樋ノ懸レルハ御世ヨリノ事ニソ有ヘキ其
ハ既ニ壑仁天皇ノ御代ニ石棺作ヲ定賜ヘル
古事記ニ見エタレハ彼御代ニ石作部ノ在リ
ハ論ナシ今行宮ヨリ近キ処ニ石部村アリ石

部村アリ石作部ノ住シ処ニヤアラム
匱^{わん}汁^{じゆ}

御所谷東御門ノ東南ニアル山ナリ此処ノ土中ヨ
リ匱ヲ出ス故匱過ト云ヲ訛リテ今ハ佛過ト云
是景行天皇ノ天神地祇ニ祈乞賜ヒ別テハ三柱
神^{志我神物部}ニ祈申賜フトシテ祭ラセ賜ヒシ時
ノ匱ナルヘシ又西御門ノ西方ヨリモ出ツ何レモ
同品ナリ掘^{チキ}進^{チキ}ヲ土中ニ埋ルハ大嘗祭式ニ造
酒司所備等呂須伎十六口都婆波三十二口
匱六十口小蓋六十口長女拍一宮祭畢都

婆波已上置山野淨地トアル類ニテ淨処ヲ
撰テ置レシ物ニコソ和名鈔云爾雅曰兔謂之兔并色
立成云比良加俗云保止岐。
新撰字鏡云保止支又加万甄城保止支卷蓋保止支兔盆保止支

鼠石窟

等覺寺山ノ上ニアリ今ハ青竜窟ト云是ハ鼠
窟コウクツヲ訛レルナリ事ハ碩田國ノ
下ニ出シツ法雲壽山ノ遊
青竜窟詩序云在豐州京郡三十里所山半
有等覺寺寺之南緣石徑紆曲至翠微為妙覺寺
其上有石窟由洞門而入深七十尺橫十五丈中安釋迦
文殊普賢石像及四天王護法善神堅立于左右彫鏤

巧妙若神工其傍有竜岩鱗甲作紋形如竜蟠觀
者悚慄上有小孔泉涓々下注如珠又南折緣石而
數十步西轉有洞戶夕陽倒影射窟中光怪奪
目壁間有藥師觀音像崖下有竅投以石則
回轉有壑莫知其所止相傳昔人然松火行六
七里有一谿不可渡而歸其中諸処有石林各
安佛像為阿羅漢宴座之所也惜寺與碑俱廢
不可考凡窟之四周峭壁如屏上蓋下平自然
天造非假人力誠勝特之境也下略トアルニテ其
大概ヲ知ヘシ但シ寺與碑俱廢不可考トハ

佛ノ事ニノミ關係ラヒテ云ルニテ上古ノ事實
ヲ毫モ沙汰セヌハ如何ソヤ土蜘蛛ノ住リシト
云フ土人ノ口碑ニモ残リタルヲヤ

女體窟

黒田村元合寺ニアリ女ヲ如ト書ルモアリ一名ヲ綾塚ト
云聖武天皇神龜五年ニ行幸アリテ素盞鳴ノ
尊ノ御女抓津媛命ノ御靈ヲ池田村ノ松山ヨリ
遷シテ女躰權現ト祭賜ヘリト云ヒ或ハ景行
天皇ノ皇后八坂入姫命ヲ祭レリトモ云ハ此皆
附會ノ妄説ナリ此ハ往古郡領ナトヲ葬リシ

墳墓トソ所思ル窟ノ廣サ横一間四尺餘深サ二
間半高サ二間許ナリ内ニ石棺アリ横一丈一
尺五寸幅三尺豎四尺許ナリ宇佐郡記ニ天
慶五年六月源基經公鎮西守護ノ時九州ヲ
巡見有テ処ニ城ヲ築キ源家譜代ノ武士ヲ
居賜フ最初女躰權現ハ叅籠シ懇祈ノ序一
國守護ノ城ヲ築ク事願ハ神闡ニ從テ草創
スヘシト出タレハ女躰權現ノ号モ稍古クヨリ
云出シトナリケリ

稻葉川

稲葉川ノ水ハ

跡 稻光川ノ川上ニテ即鼠石窟ノ北ノ麓ナリ 事ハ碩田

國ノ下ニ出セリ 六帖云

稲葉川 此ト流小つひちていなりして世に言ふまゝなりと云

稗田川

源四アリ一ハ七曲ヨリ出テ一ハ御手水ヨリ出テ一

ハ浦河内ヨリ出テ一ハ矢山ヨリ出ツ四水合テ

東ニ流レテ行事川ニ入ル

行事川

源ニアリ一ハ氷室川一ハ稗田川ナリ

氷室川

十鞍山馬嶽御所谷ノ三山ヨリ出東ニ流レテ

井尻川トナリ行司村ニ出テ海ニ入ル

神島

草野津

草野村ノ津ナリ往昔ハ此辺マテ海ナリシ事ハ

云モ更ナリ三代格ニ豊前國草野津ト出ル是

ナリ 全文ハ企救郡門司外記局記ニ草野庄ト

ルモ同処ナルヘシ 全文ハ平井寺抑此津ハ

公私ノ船ノ專着シ処ニテ新任ノ國司ノ下ラル

ルニモ亦此津ニ着船アリシナリ今ハ海モヤ

ヤニニ浅ク成モテ行テ海辺ヲハ少離タリ
血田

上田村ノ田ノ字ニ血田ト云アリ景行天皇紀ニ
見エタル是ナルヘシ又企救郡ニ津田村アリ
是血田ヲ訛リタラムモ計難シ何レニテモ有マ
ヘシ事ハ碩田國ノ
下ニ出シツ

松山城趾

新田村ニアリ西國大平記應永戦覽宇佐郡記古
城記等ヲ併考ルニ天平十二年藤原廣嗣ノ乱
ノ時官軍ヲ防クニ便宜トテ此城ヲ築ケリ其

後城主ナク在廳ノ官人蒙古ヲ防ク時ノ便ニ備
ヘ事トアル時ハ楯籠レリ天慶三年神田權少
進光貞城主トナリシヨリ以来神田氏十八代居
ル中昔ヨリ以来ハ新田ヲ保元二年平判官康盛
神田ノ一族ヲ亡シ三男藏人信盛ヲ置ク元暦
之際信盛ノ子小平大夫吉盛亦間關ニテ入
水セリ建久七年ヨリ宇都宮大和守信房ノ抱
城トナリ長野豊前守ト郡境ヲ爭ヒ終ニ長野ニ
攻取ラル建武ノ頃ニテ長野ヨリ城代ヲ置ク
延元元年太宰少貳頼尚此城ヲ攻取テ末子九

郎頼慶ヲ置ク應安元年ヨリ四年ニテ大内入道
道階ヨリ猶子天野太郎頭光ヲ置ク同七年
ヨリ菊池大友少貳守都宮等和睦シ當國ヲ
大内左京大夫義弘ニ賜リケレハ守護代ニ杉弾
正大弼興信其子弘信ヲ置ク應永五年大友氏
鑑ノ先手戸次親秀此城ヲ攻落ス此時杉ハ周
防山口ニ在リ子彌太郎光治ノ討レシヲ聞テ
大内勢ノ先將トシテ志吉ノ畑ニ船ヲ着狸葉山
ニテ勢カラ分チ門司一德齊ハ搦手ニ向ヒ天野讚
岐杉弾正ハ松ガ尾中ノ尾ニ陣シテ大手ヨリ

向ヒテ其夜攻落セリ等覺寺座主堯賢千三百
餘人ヲ率テ此ヲ援ハムトテ輿原村ニ陣ヲトル大
内方ノ門司小野田ハ大元堂ノ松原ニ出張シ門司
一德齊ハ同北ノ山下ニ兵ヲ伏セ同彌三郎ハ淡
崎ニ備ヘ足輕ノ先手ハ箕嶋ニ備ヘ杉弾正天野
讚岐ハ神惠比須堂ニ陣ヲトリ門司彌次郎ハ元
檀林寺ノ森ニ扣ヘタリ斯テ大元堂ノ南ニ戦ヒ大
内方勝テ天野安藝守義顯ヲ城番トシ應永
十五年ニテ置ク其子孫天文元年ニテ五世
弘重正
重之行
信興
政 守ル同二年ヨリ杉民部少輔盛守ル弘

治二年毛利家ノ旗下杉重吉守リシカ大友義
鎮ニ攻落サル永禄五年毛利家ノ代將天野紀
伊守隆重来守ル又大友宗麟ニ攻落サル同六
年毛利元就ノ四男十郎藏人元秋居ル天正元年
ヨリ長野三郎左衛門助盛ニ託シ馬嶽ノ抱城ト
ス故息三郎永盛ヲ置ク同十五年秀吉公ヨリ
當國六郡ヲ黒田家ニ賜リシカハ黒田家ヨリ
城番ヲ置ク其後細川家ノ領内トナリテモ城
番ヲ置シカ後間ナク破却シヌ

馬嶽城趾

大谷村ニアリ此村元禄ノ頃ニテハ馬嶽村ト云シ
トノ伯耆人門取重綾カ名和氏紀事ニ馬嶽ヲ筑
前トセシハ誤ナリ宇佐郡記應永戦覧古城記
等ヲ合考ルニ天慶五年源経基如體權現ニ詣
テ祈リケルニ夢ニ菩提院ノ東方ニ當テ巖
宮神馬ニ騎テ現賜フト見エタリ故ニ具山ニ
城ヲ築テ馬嶽ト称ス大宰大貳公頼ノ子筑
前守昌頼ヲ當國ノ守護トナシテ此城ニ置ク
昌頼ノ子公頼本領宰府ニアリ依テ公頼ノ弟
為頼ヨリ六代光頼宗頼繁相繼テ守ル仁平元

頼貞頼頼行

相繼テ守ル仁平元

羊源為朝攻落ス其後草野權守家仁守リ其
子孫三代居ル元暦年中源平戦争ノ時豊後緒
方ノ一族緒方九郎家^平ニ叛テ楯篁ル源石大將
府ヲ鎌倉ニ開テ九國ニ探代ヲ置キ國々ノ守
護ヲ定ラル此郡ハ探代領ト成テ探代ヨリ城
番ヲ置ク建武ノ乱ニ太宰少貳攻落シ抱城ト
ス菊池肥後守来テ攻取ル又大友家来攻ハ長
野ノ一族規矩ノ一黨互ニ此城ヲ爭フ貞和ノ頃
征西將軍ニ從テ新田上野介義基^{多田滿仲十二}
當國ニ下リ三代^{義基義世孫賴氏二男}守ル永享三年ヨリ

菊池ノ抱城トナル然ルニ大内家ヨリ攻落シ盛
見ノ嫡男掃部頭教幸ヲ置ク文明元年教幸叛
テ自殺ス其子陶武藏守弘春居ル明應九年大
内大友軍ヲ斃シテ教々戦ヒ大友ヨリ兵ヲ篁ノ
置ク文龜三年終ニ攻落サレ大内ノ城トナル永
正元年ヨリ警頭兵部大夫弘通ノ子右馬頭吉弘
守ル天文二十年大内義隆滅テ陶入道宇都宮ニ
預ク永祿四年城番賀親清大友ヨリ攻落サレ
天正六年ヨリ長野三郎左衛門助盛守ル同十
五年ヨリ黒田家ノ抱城トナリ元和ノ頃破却

障子嶽城趾

京都郡田川郡ノ界ニアリ建武三年足利尊氏
足利駿河守紗氏ニ命シテ築カシム應安元年
千葉上総介光胤紗氏ヲ討テ自居ル文明元年
千葉高胤亡ヒテ大内ノ抱城トナル天正ノ初小
早川隆景ノ抱城トナリ同十七年破却セリ今
モ空^{カラ}湟^{ホリ}残レリ又本城北ノ丸馬屋ノ跡ナト云
処アリ

高木村城趾

山鹿足利等居城

生山城趾

田村ニアリ細川三齋ノ舎弟堯安ノ城代毛利左
馬頭居城

高城城趾

南原村ニアリ長野三郎左衛門ノ抱城ナリ後
杉因幡守居城トナレリ

十鞆山城趾

圖師村ニアリ元暦ノ際平氏築テ籠レリ

今村名ト成リリ 和名鈔云參向國碧海 字書

皆祖此切者子口 駁ト是子本ソシルノ義

十ルヲ了ケルニ轉用ヒタルモノ成ルニ

新撰字鏡ニ咄虫同仰佐介留又曾志留又和良

不十ト見エラ了ケルモノシルモ意ハ一

落メリ備了ケルヲ了ケトノ三云例ハ古事

記ノ嘲咲古語拾遺ノ咲噓ヲ了ケラフト訓

ム類十リ即了ケリワラフノ畧言十リ延曆

大神宮儀式ニ院住皆鹿園ト云モアリ抑皆見

ト云故事ハ草場村豐日別官録起ニ昔年九留

多比古神立伊良和羅山見溪水此川不深其水上

以少流淺水所名淺見川又云其日東曙見河因

西早朝見川ト見エメリ

蜀見

字書ニ蜀受草又艾草韓昌黎鴛鴦詩云々饑食

一味蜀說文包束草之形中本ハ中俗又加竹作

蜀非十リ十ト見エタハ久佐ハ蜀字ヲ書ハナ

十リ然ルドモ馬寮式ニ諸衛府并西國年科蜀

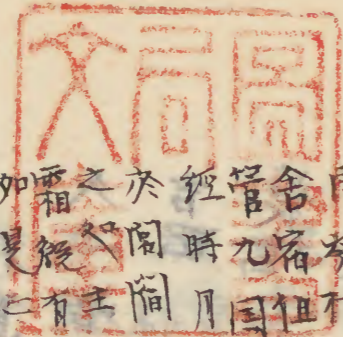
云々蜀蜀五十八百年野蜀一十三斤衛門

式ニ九府牛蜀林云々但青蜀者令衛士刈飼之

下出夕六ハ蜀ト蜀ハ相通シ書ハ故尊見ハ
開三ト訓ムヘシ今此名湮没テ何所トモ不知者
クハ草場村ハ夕開三ヲ記出ルハ非ハ其
城并郷ト云ハ其ノ山内ハ昔ハ蜀ト蜀ト云
今城并馬場村ト云テ不知此近隣ト云ハ其
狭度郷ト云ハ其ノ山内ハ昔ハ蜀ト蜀ト云
此名廢レテ今ハ何所トモ不知
高屋郷ト云ハ其ノ山内ハ昔ハ蜀ト蜀ト云
今ハ村名トナレリ姓氏録河内国、神別云高屋、
連、饒速日、余十世孫、仔已止、
足元天之後世

中臣郷

此名今ハ廢レタリ豊後凡土記ニ仲津郡中臣
村トリ又應永年佐官寺造澄日記ニ当宿一御
殿是燈御料所豊前国仲津郡内中臣今男八丁
御寄附云々ト見エタレバ此頃マテハ中臣ノ
名ヲ存セシナリ和名鈔ニ播磨国揖保郡中臣
神名帳ニ伊勢国桑名郡中
臣神社ト云定村翁ハ南ハ富村有リ北ハ富村
アリ其ノ中間ハ許富村有リハ許富村ノ邊ヲ
古ニ中臣ト云ニカト云レタリ也考ニ位昔
ハ久富福富許富ハ三村ヲ惣テ中臣郷ト云シ



馬場 上高屋 下高屋 本庄 統命院 院
 二年十一月 癸酉 故 參 儀 形 部 院 院
 巨谷村 前 為 太 宰 大 貳 時 建 統 命 院 院
 管九日 不 藉 公 刀 心 不 得 長 存 叙 本 意 以 備 往 來
 經時月 其 車 重 者 民 或 公 或 和 往 來 叙 本 意 以 備 往 來
 於 閣 間 其 車 重 者 民 或 公 或 和 往 來 叙 本 意 以 備 往 來
 之 閣 間 其 車 重 者 民 或 公 或 和 往 來 叙 本 意 以 備 往 來
 霜 經 有 王 家 爭 趁 皆 獲 身 是 逐 便 官 舍 倉 庫 之 下 輕 者 暫
 如 是 經 有 王 家 爭 趁 皆 獲 身 是 逐 便 官 舍 倉 庫 之 下 輕 者 暫
 隔 入 口 怨 田 保 得 產 畜 亦 以 亂 寒 死 有 十 七 也 矣 見 其
 恨 心 怨 田 保 得 產 畜 亦 以 亂 寒 死 有 十 七 也 矣 見 其
 師 心 怨 田 保 得 產 畜 亦 以 亂 寒 死 有 十 七 也 矣 見 其
 加 修 理 令 致 破 損 及 非 法 費 用 之 類 茲 以 官 位 倫 未

谷口 山鹿 崎山 大熊 江 梁瀬 喜田 良下 大
 坂 横瀬 犬丸 内垣 久富 永江 城井
 高塚郷 此毛名廢 上 何如 上 毛 定 難 元
 扇谷 帆柱 仔良 存 下 上 鏗 畑 大村 木山
 仲津郷 今ハ何處トモシク又田川郡ニハ中津原村
 社ノ下ニ云々ト云 此今云儿ニハ非儿乃猶下毛郡中殿村貴和
 力後ニ分レテ三村トナレ 此時好字ヲ以テ如
 此今云儿ニハ非儿乃猶下毛郡中殿村貴和



及上聞岑丹物故其眾就大臣追以陳請教令所司
 俾允所請句白之官遷晉之日與奪解田一准國司
 重春云原承公フ心ニ作シテ誤十リ古川八南
 今八大本史ニ抄テ改メ以テ
 花能考位崎野國分上坂位政一有
 久皆見後野下原上在錦在田中
 吉田節九无富袋迫松原栢堂長江
 兼嶋元永津雷下野馬場辻垣高瀬
 直城寺位永同作社武段平嶋
 田新押千田草場高羽根亦五金屋命分并
 莊皆尾後以八九内福富八太橋本福存宮市
 寺畔流丰夫富天生田空寶山空大野并大

以上七十七村十ノ四ノ里ノ外ノ村ノ同ノ如
 豐日別國魂宮

官幣宮上七補ノ草場村并百ノ傳記云豐日別
 宮或尤雷多比古社沙伊和并宮又云豐日別大
 神奉^{重春云長光原ノ事ハ田川}上寶鏡^{郡採銅所村ノ下ニ云リ}御正躰長光社務官前一授相傳秘
 决^{重春云長光原ノ事ハ田川}正躰納置^{郡採銅所村ノ下ニ云リ}于神殿前^{郡採銅所村ノ下ニ云リ}先寶鏡^{郡採銅所村ノ下ニ云リ}御正躰官幣字化放
 生會行幸會御進叢前御幸權三合權緒京都郡
 岩熊村名族以方并製獻之又云敕使今居津到
 草場官安官幣於神豐日別大神與官幣合祭而

崇官幣大神号早佐八幡大神官敷候上官幣字
 依留八十餘度六年一度行幸會每年四度不備
 敷候公卿官幣大神上早佐官国司敷候用海上
 月波之難在之草場大神是護人云々在廳官人
 敷候代而下至放生會之川云々官幣大神神幸
 之経路者重春云此経路即国府リ豊後自
 官路考有住来乃官路トリ所思云々
 所屋鋪処假宿也國作總社之葦備神供同日神
 宿位政若官西夜也神供重春云細男
 郡古表社ノ下十一日祭位政社至後川禊同日
 假宿於築城郡湊八幡宿湊之葦備神供同上毛
 郡山田邑宇像官亦者坂上昆沙門邊假宿山田
 葦備神供同日神宿下毛郡高瀬邑神供重春音樂
 細男十二日祭高瀬神宿宇佐郡佐野里神酒神
 十一日祭佐野里傳千官幣大神山士塚而窺待
 八幡神幸而同列班陣迎和間濱着幣殿浮殿頓
 官官幣大神正躰官司八幡官奉上巳午尅于
 時官幣大神但勤之祠官亦樂頭樂人居別殿云
 々又云神領采田御内馬上田尅町同御内三月
 田一所築城庄内高塚笛吹田一所東御内徳政

村鉾一町中東郷今井市場封八町
重春云此傳記抄考此祭神株田昆古
大神坐ス豊田別國魂宮ト稱ス奉此由
十リ豊田別ハ豊田豊前別名ナリカ此國
ハ株田昆古大神殊更ニ經營ト稱給ヘ
此切魚ノ有ケル故ニ國魂神ト齊キ奉ルニヤ
草場村ノ隣村ニ因作ト云有リ此ハ此國ヲ
作ラシケル株田昆古大神ノ鎮リ坐ルニ因
トシ地名ト思ハルハ市ノ此邊ヲ總
云シ大名ナルヘシ因造大名年遷神ト稱ス
思ヘテ然ラズトモ別名ヲ大土御祖神ト云
御申シテ大國主神ノ因作ノ切續ヲ助給ヘリ

下聞ユルハ國魂神ト崇ヘ稱ヘ奉ラレ然モ
有心ハキ事ニコソ大土御祖ヲ株田昆古
七十段之殊ニ延曆内宮儀式帳ニハ大土
傳ニ律ナリ神見大國主命ト有テ大土
神社一知稱因生神見大國主命ト有テ大土
神ノ亦名ヲ大國主命ト云稱スチヤ又此傳
和井官トハ株田昆古大神ヲ庚申ト云ヨリ
幸神ト漢音ノ同シキヲ以テ幸ハ甘イワレ
ト訓台字ナリニ因テ申昔ヨリ唱ヘ誤タル
ニモ有ヘシ又官幣官ト稱スルハ宇佐宮ハ
御調進ノ官幣ヲ暫ク納置ク宮ナリハナリ

扱彼官幣ヲ此官ニ納置クテ如何ト云ニ
田川郡栢銅所村トシ長光家ニ命セテ鑄造
セ給ヒシ御鏡ヲ迎ヘ其ヲ官幣大神ト稱シ
テ勅使ノ京ヨリ持下ラセ給ヘル官幣ニ添
テ字傳官ニ調進為給テ所豐見別大神ニ行
幸有シ趣ニ入聞テ此トシ如何ト云由緒
有テトシカ知難クシト直ク今此大神ノ三
テラス扱官ノ大奉ニハ近儀ノ神社ノ行幸
有シモ此扱聞エシバカト類ノ行幸トシカ
而同ク考テハ此扱今ハ太シク衰替マシク

トド中昔マテモヤ、大社ニテ領主地頭ト
トモ掌敬ヲ加ヘラシタル趣ニ聞エテ名友
神皇定カ所藏セルハ早川陸景主ノ御札ハ
文ニ云ク昔ト聞テ此扱今ハ太シク衰替マシク
國村林整制ト云ク本然有懸故ト云ク
草場村
官幣大神官
石佛草場甲乙人濫妨根藉并竹木採用之事
堅令停止畢若於背此背有可也嚴科有也
不知如何件下二月六月

天正十一年二月六日

左衛門佐

花押

此ヲ以テモ當年久成ニ想像スヘシ
此モ同ジク上古ノ遺制ナリト云リ
ルカ押ハ南面ニ鎮座リト云リ
此モ同ジク上古ノ遺制ナリト云リ

總社

國作村ニ有リ至平次ニ總社ト稱スル社ノ事
ハ多クハ昔ニ國府ノ在地ニ有テ式内ニテ某
神社ト有ル社ニ多カリカ亦式外ニテ只ニ總
社ト稱スル社ニ多カリ此ハ皆ルニ住昔國々ニ
國司ヲ置賜ヘリシ時ニ其始テ入府セル時ハ

國神ノ守拜トテ其國ナル諸社ヲ畫ク巡拜シ

又然ラヌ時々モ巡拜スル式ナリニカバ其社

主父ラ一社ニ總祀ヲ總社ト稱セルカ新ニ社ヲ

建タルモ多カリト云ハ其國府ノ地ナル一

官ノ社ニ配齊ヘルモ有也故ニ只ニ總社ト云

式内ニテ其神社ト云フ社ヲ總社ト稱スルモ

多ト聞ヘタリト云シタリ總社ノ例ハ昔書鑑

直胤卿永正七年十二月記ニ也江國神崎郡ハ

此地ノ總社ハ社ヲ新ニ建テ國內ナル社々ヲ
總祀ヲ總社ト云ル成ヘシ故國守ノ神拜ノ事

八統純二和銅二年甲申初定國司巡行三并遷代
時給狼馬脚夫之法主祝式九太宰及國司巡
行都内者云々十見工夕レ八入都七時ハ
必都内ヲ巡行シテ其時諸社へモ巡拜有リ
總物ナルヘシ今モ大名等外國巡リ或ハ廻郡十
下為ラリト爾時々々必社々々モ巡拜有リ是性
方人所為ノ遺レルナラム其國亦ハ此ナリ
生立八幡宮 然ルニ殿方ノ所ハ廿條ノ坊
木山村ニ有リ 又巡行ノ所ハ左ノ坊ニ有リ其坊
國造大明神 然ルニ殿方ノ所ハ廿條ノ坊ニ有リ其坊

皆尾村ニ有リ祭神ハ國造早那足^{ナリ}足^キニヤ將^リ蒐
名年ニヤ足ノ雄ニナレバ村名ノ皆尾ハクニ
ツコヲ訓ルルニナリ有ル所ハ皆尾村ニ有リ
妙見社 其地ハ皆尾村ノ東ノ山ノ下ニ有リ其地ハ
元永村ニ有リ永亨八年ノ鐘アリ銘文ハ前聖遺
文ニ載スヘシ其地ハ皆尾村ノ東ノ山ノ下ニ有リ
祇園社 其地ハ皆尾村ノ東ノ山ノ下ニ有リ其地ハ
妙見社ノ攝社也世に今ノ祇園ト稱ス是也
天疫神社 其地ハ皆尾村ノ東ノ山ノ下ニ有リ其地ハ

大天主田村ニ有リ祭神素盞鳴尊ニテ相殿ニ大
 己貴命五十猛余鎮坐リ社傳ニ盛奉鳴尊自天
 上師其子五十猛神到於新羅國云々傳曰非此
 地者見可御之國以埴土作舟而東歸矣着舟九
 川尊經由千豐前國之時豐日別命出迎而嚮導
 尊問曰汝國名何耶對云奇^レ之^レ量國也尊喜
 於懷曰斯地益國之壤區也年何不居乎遂以此
 所為行在所而居今日仲津郡者因神語也ト見
 於^レ八^レ古^レ言^レノ^レ所^レ思^レ凡^レ土^レ記^レト^レニ^レ扱
 テ^レ作^レ文^レ也^レニ^レヤ^レ 豐^レ別^レ余^レ八^レ豐^レ別^レ國^レ魂^レ神^レニ^レテ^レ即^レ株^レ田^レ彦^レ神^レト^レ由^レ八^レ豐^レニ^レ
別^レ宮^レノ^レ下^レニ^レ云^レリ 但祭神素盞鳴尊ト^レ七^レ八^レニ^レ誤^レト^レル^レハ
シ^レト^レル^レハ^レ古^レ史^レ傳^レニ^レ云^レク^レ仁^レ明^レ天^レ皇^レ紀^レ元^レ和^レ六^レ年
 正月ノ如ク勅令知邑每季敬禮疫神聖武天皇
 紀天^レ辛^レ七^レ年^レ八^レ月^レノ^レ處^レニ^レ大^レ宰^レ府^レ疫^レ死^レ者^レ多^レ云^レ々
 長門以還諸國守若久介專齊成道鄉祭祀稱德
 天皇寶龜元年六月ノ處ニ祭疫神於京師四隅
 畿内十堺臨時祭式ニ^レ元^レ畿^レ内^レ十^レ堺^レ十^レ所^レ疫^レ神^レ祭^レ
 元^レ見^レエ^レタ^レル^レヲ^レ思^レフ^レニ^レ伎^レ八^レ衢^レニ^レ塞^レ坐^レ行^レ疫^レヲ^レ流
 行^レス^レル^レ鬼^レ魅^レヲ^レ追^レ避^レ賜^レフ^レ功^レノ^レマ^レス^レ故^レニ^レ疫^レ神^レト
 社^レシ^レテ^レカ^レク^レ臨^レ時^レニ^レ七^レ祭^レ賜^レエ^レト^レ云^レレ^レ夕^レル^レ如
 如

此地十ニ天疫神ニ塞神三柱十ニ事無ル
ヘシ其相殿ニ柱ヲ合セテ三柱十ニヲ思ヘ
抑当國府ハ此郡草場村ニ在シカハ國府ノ事
敷ノ下ニ其國府ノ四隅或ハ十堺十トニテ疫
神ニ道饗祭セシ事ハ論十キヲ天生田ハ村側
ニ川在リテ是國府ノ西堺トモ云ハキ地十
バ必塞神ヲ祭レル社アルヘキ物十リケリ
早都宮大明神

城井馬場村ニ有リ下野國早都宮ヲ勸請セリ
此ハ文治元年早都宮大和守信房ノ當國ノ事

護ト成テ下リシ時ニ本國ノ產士神ヲ祭レル
物成ヘシ東鑑云文治五年十月於下野國令奉
記云大已貴余男事代主命也ト有リ今早都宮
大明神ト申ス是也住古ハ二荒山ニ坐シテ
此所ニ移セリト云シタリ神明式ニ下野國
河内郡ニ荒山神社ト云ハキ早都宮ノ事ニテ
是此國ノ一官十リ

安樂座大明神

早都宮大明神ト相並ヒテ立リ早都宮泉澤云
祭神々功皇后天兒屋根命武雷命十リ早都宮
大和守信房勸請ス文治元年八月朔日早都宮
信房同殿ニ祭ル同二年二月七日信房秘載

放光動則祚直三竹并都宮之宇殿正綱公又荒
座大明神為別殿而社建立其後大和并頼房即
神号之宇改安聖倉奉并又曰始信房秘鞍ヲ綱
ノ神威荒賜フ依テ荒鞍ト号ス
鞍用山権現

早都宮家譜云早都宮信房建久七年七月學粟
田関白道兼公靈望見山後改鞍用山或説天
武天皇日月ノ鞍ヲ早都宮家ニ賜リシヲ相傳
ニ其鞍ヲ御靈代トセシ力故ニ鞍用山ト稱フ
ト云リ如何アラム

飯嶽権現

大坂村ニ有リ藤原履嗣ノ靈ヲ祭ル肥前國
松浦郡板橋明神モ履嗣ノ靈ナリ
國分寺

國分村ニ有リ御巫清直翁云日承紀天武天
皇五年ニ始テ四方國ニ説經ノ事見工同十四
年三月壬申詔諸國每家作佛舍乃置佛像及經
以禮持供養トス是即國分寺ハ隘觸ナリ諸
國每家トハ諸國司ノ政務ヲ判スル官家ヲ謂
フナリ官家ハ所謂國府ニシテ其國府ニ作

レハ佛舎ハ則國分寺ナリ然ルヲ元亨釋書ニ
此詔ヲ引テ許天下民宅構佛宇ト注セハハ麓
妾ノ説ナリ紀中ニ天下諸民ノ私宅ヲ謂フ時
ハ而姓舎屋ト記ス例ナリ何ソ公然ト諸國每
冢ト詔ハム然ルヲ谷川本居西翁ノ博達廿八
釋書ニ欺カレテ通證玉勝閣寺ニ愚論ヲ載ラ
レタルノ遺憾ナリト云タルハ確説ナリケリ
然レトモ統紀天平字字四年六月ノ處ニ天下
國分寺者本是太右之所勸也太右トハ聖武天
皇ノ御右ニマ
ス光
明皇右ト見エタルト朝本文粹三書清行公
意見十二条其文ハ下ニ
出スヘシトニ抑テ考ルニ國
分寺ノ號ヲ負賜ヘルカ將國分寺ノ未無千國
有シカバ新ニ勅アリテ六十余國残りナク建
ラレタルカ大同三年ノ詔全文ハ下ニ
出スヘシニスラ
若死國分寺者云々ト有ルヲ思フヘシ天武天
皇紀云五年十一月甲申遣使於四方國覲金光
明經仁王經同十四年壬申三月詔云諸國每家作佛
舎乃置佛像及經以礼持供養統紀云大聖四年
夏四月丙申令京畿及諸國寺讀經焉又云神龜

五年十二月己巳金光明經六十四卷收六而四十
卷頒於諸國又別十卷又云天平七年八月乙未
勅曰如聞此日太皇太后有疫死者多云有太寺及
別國諸寺讀金剛般若經云々同九年三月丁巳
詔云每國令造釋迦佛像一軀扶持菩薩二軀兼
鳴大般若經一部本朝天祥三善清行公意見十
二条云欽明天皇之代佛法初傳本朝推古天皇
以後此教盛行云々降及天平孫以尊重云々又
令七道諸國建國分二寺造作之費各用其國正
稅於是天下之費十分而五流紀云天平十二年

六月甲戌令天下諸國每國造法華經十部并建七
重塔高九尺己亥勅曰國別造觀世音菩薩像電
軀高七尺并寫觀世音經一十卷同十二年春正
月丁酉故大政大臣藤原^原良家返上食封二千戶
二千戶依例及賜其家三千戶施入諸國國分寺
以充造丈六佛像之料又云天平四年秋七
月癸丑天下諸國每國奉造阿彌陀淨土畫像於
分^國金光明寺北持伴養同五年六月庚申天下諸
國各於國分尼寺奉造阿彌陀丈六像一軀祇侍
菩薩像二軀又云天平神護二年九月戊午勅

令諸國具錄歲中修理官舍之數并朝集使每年
奏聞者國分二寺亦宜准此又云神護景雲元年
春正月己未敕畿内七道諸國一百日間各於國
分金光明寺行吉科天悔過之法又云室龜三年
六月甲子設仁王會於畿内七道諸國分金光明
寺又云延曆元年十二月壬子勅太上天皇周忌
御齋當今月二十三日宜令天下諸國分二寺
見僧尼奉為誦經同二年其四月甲戌勅國分寺
僧死闕之替以當土之僧堪為法師者補之
本後紀堀本云大同元年三月辛巳奉為寧道天

皇令諸國分寺僧春秋二仲月別七日誦金剛
般若經又云延曆二十四年二月己未令諸國分
分寺行藥師悔過以聖躬未平也又云大同三年
九月辛卯詔曰其畿内七道令國分二寺轉述大
乘一七箇日四年正月丁亥令天下諸國為名神
鳴大般若經一部奉流供養安置國分寺若元國
分寺者於足額寺又云弘仁二年九月己亥令諸
國依舊定奉修理國分寺科三年二月戊寅勅大
同之初令畿内講師專預講說令演真諦其諸寺
雜事并補三綱等暫預僧綱但國分寺者國司講

師相共檢校者自今以後都因諸寺宜令講師永
加檢校其四分二寺因司亦相共檢其造寺用度
者講師別亦勘錄每年申送於僧綱覆覆之由令
依旧因責其解由諸國并置準之六年九月甲申
於京畿七道諸國之分二寺僧左年八十已上每
人綿二十已日本紀畧云天長八年三月乙巳佛
舍利五而粒令太宰府觀音寺講師光豐安置彼
府管内四分寺及諸是額寺
皇太后其世之形之見之乃而十然八九

朝廷ヨリ嚴重ニ為サセ賜ヒシ狀ナリテ清
行公ノ意見十二條ノ講師師多非持律之人
或有贖勞之輩况其四分僧少人皆是無漸之
徒也蓄事于管室家力耕田行商價之夕
諸寺年分及臨時得度者一年之内或及二三
百人也就中半分以上皆是邪逆之輩也又諸
國而姓逃諱役通祖調者私自落髮猥著法服
如此之輩積年漸多天下人民三分之一皆是
秃首者也此師家蓄事于口啖腥膻形似沙門
心如屠兒况其尤甚者聚為群盜窺鑄錢貨

不界天刑不顧佛律若國司依法勘紀則霧合
雲集競為暴逆前年攻圍安藝守藤原時善劫
畧紀仔守橘公康者皆是監惡之僧為其魁師
也縱使官符尋覓朝使後行者時善公康皆為
集肉也云々ト云レタルヲ見ルハ任方子將
秀氏ハ無賴ノ徒多カリケリ其レハ南庭ヨリ
用ヒテヤセ賜フヲ頼三仁任ニ校意セシモノ
ナリ衰レ此國分寺ヨリ方今ハ衰果テ終ニ
ル堂ノミ立ルハ定村翁ノ歌ニ用フナリ
モカシコモコボルハ子ノ道ノアハ

六十リケリト詠シタル狀ニテ當年ノ面影
新海ニモ無ルハシニハ一月大内不口ト對
興正寺ハ其ノ寺ノ名ニテハ大内不口ト對
大坂村ニ有リ木村不動嶽ノ城主西郷形部左
衛門高賴墓ト非也大内不口ト對ハ其ノ
城原ハ其ノ城ノ跡ト云フハ大内不口ト對
木下村其原トナリ事ハ京都御願田園ト云
シハ其ノ跡ト云フハ大内不口ト對ハ其ノ
國分原

國分寺村ノ原ナリ廣キ野原ト云フ方一里有リ

山云... 長者原

新田原ノ南ニ竝ヘル松原ナリ名和氏紀事ニ

大平記鎮西要略ヲ引テ後村止天皇正平十七

年九月名和頭長菊池武光ト共ニ征西將軍ヲ

奉シ高足利氏經少戴大友等ト筑前ノ長者原

ニ戦フト書リ筑前トモニハ誤ナリ大日本史

興七年九月二十七日庚子菊池武義突斯波氏經

其後應永五年十二月廿一日大内家ヨリ豊後

大友氏鑑ヲ討ムトテ大軍ヲ率ニ此処ニ出張

シ翌日築城原ニテ戦争アリキ新田原

新田原新田原

一里許ノ松原ナリ新田原

難行原新田原

錦原村ニ有リ新田原

今川新田原

水源彦山ノ竹藜ヨリ出テ西郷谷ヲ過テ北東

ニ流レテ海ニ入ル新田原

葦嶋新田原

和漢三才圖繪云在神田之東隔海上一里許無

双之地景也

夫木集云云

嶋既名成

檜垣女集云

應永

杉彈正

國豊田

對面

月内

節

ケト

光陰

幸ト

ハス

西地

ノ方

汐乾

ケル

蓋崎

蓋崎

蓋崎

蓋崎

蓋崎

蓋崎

益往ク又沖ノ方ヨリ火團来テ竜女官ノ邊ニ
テ入違イ雙方ニ飛去又九郎此火ヲシルベキ
シテ父母ニ對面シ年月ノ物語ニ夜モ圍ニ及
指ヒケレハ知父母ニ暇モシテ立歸ルナレトモ沙
元来ラヌ九郎モ奇異人思ラナシ本外陣所ニ
應ニ歸着ス陣所ノ人ニ何ノ刻ソト問フニ成刻
ト答フ九郎餘カ不測ナニ傍ノ人ニ然クノ由
國語ナレシハ年先ニ人云ケルハハカヨフナリ
事誠ニ汝カ存心ヲ天神地祇モ感應有ラコソ
月沙モ早乾キ不知火モ道シルベキ成ベリト

云々

松嶋盛亮云 田川郡 向トモ向色御堂の山に近き
をみ此多事 香春人 此ハ昔籠峯
ニ名夕、ル槍垣ノ子カ詠ルナリ此三笠山ハ
籠前ニ笠郡ノ山ニテ兼寫ト云ハ此國仲津郡
ノ海ニ有シハ最開遠ナルヲサシテユクト詠
ルニ依リテ考レハソノカニハ都ヨリ太宰府
ニ降ルタモフ人々此ノ國ノ荒津兼寫ノ息ニ
籠舟ハラテ同郡ノ逢坂ヲ越テ田河郡ヲ横キリ
籠前ノ出テ府ニ到ルニ越ワキ山無ク渡リカ

又北川モアヲテ甚^ト更五^ト十^ト道十^ト今元伊田
原テフ也^ト其跡^ト残リタル^ト里人^ト車通
ト云十^ト里^ト梅^トノ壘^トノ名^ト頁^トノ宮^トノ頃^ト形^トハ白
縫^トノ筋^ト紫^トユ^ト下^トル^ト舟^トハ^ト專^ト荒^ト津^トハ^トト^トマリ^トシ^トカ^ト其
海^ト浅^トク^ト十^トリ^ト舟^トモ^ト寄^トラ^トス^ト成^トユ^トク^トマ^トハ^ト大^ト戴^ト十^トト
ノ^ト下^ト向^トサ^トヘ^ト止^トニ^ト夕^トシ^トハ^ト荒^ト津^トテ^トフ^ト也^ト廿^ト二^トシ^トラ
ス^ト成^ト早^トニ^ト何^ト某^トノ^ト抄^トニ^トハ^ト筋^ト前^トト^ト出^トル^トク^トル^トハ^ト甚
アル^トマ^トシ^トキ^ト口^ト也^トト^ト云^トリ^ト此^トハ^ト甚^ト夢^トク^ト可^ト實
秀^ト十^トリ^ト但^トニ^ト荒^ト津^トヲ^ト筋^ト前^トニ^ト非^トス^トト^ト云^トハ^ト謬^ト也^ト当
國^トニ^ト七^ト京^ト都^ト御^ト草^ト野^ト津^トノ^ト近^ト境^トニ^ト新^ト津^ト村^トハ^ト下^トシ

ト古^トク^トヨ^トリ^ト云^ト十^トリ^トハ^ト筋^ト前^ト十^トリ^ト事^ト三^ト代^ト實^ト録^トニ
新^ト羅^ト賊^ト船^ト二^ト艘^ト筋^ト前^ト四^ト郡^ト珂^ト郎^ト乃^ト荒^ト津^ト角^ト到^ト来^ト天
豐^ト前^ト國^ト貢^ト調^ト船^ト乃^ト綿^ト綿^ト手^ト掉^ト奪^ト天^ト逃^ト退^ト秘^トト^ト見^トハ
タル^トニ^トテ^ト知^トベ^トシ^ト又^ト大^ト戴^ト十^トト^トノ^ト船^トニ^トテ^ト下^トラ^トル
ル^ト由^ト書^トル^トモ^ト語^ト十^トリ^ト民^ト部^ト武^トニ^ト大^ト戴^ト以^ト上^トハ^ト陸^ト路
ト^トヨ^トリ^ト下^トラ^トレ^トシ^ト由^ト見^トハ^トタル^トナ^トヤ

天神宮

藁嶋ノ浦邊ニテアリ

鶴湊

今津畱村ト云是十リ此邊中昔マデ入海十リ

シ田ニテ應永戰覽ニ鶴ノ溪ト見エ又シ田
海石榴市

元永村ニ有リ海石榴樹多シ事ハ京都府碩田

在廳屋鋪

草場村ニ有リ是國府ノ蹟ナリハ平家物語

ニ師光ノ所スルハ心ヲ和ス成事ト云ル

去ヨリハ到リテ印アリ昔事鑑ニ相司者自

公家被補仕在廳者國司鏡也マ夕大丸菊松

地頭高田御地頭等如私領知行ニ致所当以下

勤之由依在廳訴申自院被仰下仍可致勤之由

度々下知ト下ルニ抑テ按フニ在廳ハ國府ニ

在ル土着之官人ヲ云ヒ其官人ノ居ル府ヲ云

在廳ト云ナリ神字定カ所藏ノ天文十年大内

家ノ文書ニハ太宰府ヲ云在廳ト云リ出雲風

土記兵部式三代實録等ニ國廳ト見エタルニ

在廳ト同シク國府ヲ云ナリ初和名鈔ニ國府

在京都府ト有ルハ甚々疑ニ名クハ但ニ分非

ルカ或ハ性方京府トナリシヲ後ニ此郡ニ移

セル事ノ有リシカ後紀本ニ延暦廿三年正月

士寅遷但馬國泊於氣多郡高田郷同四年十一
月乙酉遷攝津國泊於江頭十ト見エタハ八國
府ヲ遷セル例ナリ三代實録ニ出羽國府但
總社國分寺統余院十ト皆当郡ニテ近之隣村
ナリニ京都郡ハ然ル名存シル事モ聞エ
ナシハ是ハ必源順主人謚トソ所思ル且草場
國作兩村ノ西方ニ高貴人ノ墳墓ト思シキモ
ノ廿三布リ是國司四等ノ官人等ヲ葬リタル
所ニテモ有又ヘク思ユレハ旁國府ハ草場村
ナリニ事疑ナカレベシ尚此外ニモ此郡ニハ

下高屋村ノ南一町餘ニ赫山有リテ株田考大
神テウ御祭ノ例トメ相撲ヲ取ラセムトスル
ニ此年御祭ニ彼石神ノ上家ヲ官造テ所狹ケル
ハ五ト間行下方ニテ物セハト高阜無キヨウニ
エトト王公貴名櫃ト所思シキ物ニテ鏡劍ヤウノ
見ルトハ骨體十ト楯巖然ニキ物ニテ鏡劍ヤウノ
物ニテ骨體十ト楯巖然ニキ物ニテ鏡劍ヤウノ
覆ヒカノ如クハ其地ヨリ目ノ朝彼村ノ
テ角カヲ取セタリ如是テ四目ノ朝彼村ノ
谷五ト外ニ人許夜ハシカマヨリ死タ
キラ一ト或ハニ事ニ思ヒシカマヨリ死タ
云病モ無クテ死タリ及ヒテ依テ痛々々々
ルニ三ト人許ニ及ヒテ依テ痛々々々
十四ト死タリ及ヒテ依テ痛々々々
シガト者ニ此ハ必其合シムルア皆市キ墳墓
峯ナリト是ニ始テ思合セテ同ニ山ノ

山 灵神ノ社地ニ社ヲ造ラ彼古墳有灵ヲ登リ
神皇ヲ奏相撲ト取テテ謝申シテ
其ヨリ彼ノ堂止タリトブ

山鹿村城趾

山鹿氏居城

蓑島城趾

天文ヨリ天正ノ際長門咽高倉城主杉因幡守

重昌ノ子千代九重良居リ後高倉^橋宇全長野

祐盛ニ改落サレタリ

宝山村城趾

安集萬次郎居城

不動嶽城趾

大村ニ有リ西郷形都左衛門高頼居ル高頼大

堤村興正寺ニ詣テシ時道ニテ長野祐盛ニ討

併ニシウノ城趾

同村ニ有リ杉因幡守居城

燕岩城趾

崎山村有リ番倉嶽城之塞也

元永村城趾

城主未詳

戸通城趾

大上高屋村、有リ城主未詳

ノリキ山城趾、有リ城主未詳

馬場村、有リ字都官播磨守居城十リシカ未

詳

神樂城趾

有リ今井津其居也天文ノ頃今

出兵衛元國居也

植瀬村城趾

不詳

淡見城趾

節九村、有リ今村式部居城

黒岩城趾

有リ城主未詳

大將陣

天生田村、有リ誰陣所十リシカ未詳

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

云事有り是和名鈔云々大野槁木ノ二郷
十ル由ハ下ニ云カ如シ築城ト云ハ此ノ城ヲ
築キシニ因ル稱ルヘシ

或記云細川眾ヨリ御引渡之高築城節二萬二
百二十七石六斗六升七合一匁一釐

綾幡郷

今ハ訛リテ赤幡ト稱シ村名トナシリ
トハ文アル布帛ノ一ニテ古ク服部ノ住シ也
ナルヘシ古史成文四十九段ノ傳ニ遠江國敷
智郡濱名ノ出本村ト云也ニ式外ナレド初生

衣神社ト云テ天棚機比賣神ヲ稱スル此社ニ
仕奉リテ祭ヲ掌ル人ヲ神ノ目代ト云テ代々
神ヲ稱号トナシ姓ハ服部ヲ稱ヘリ此家ヨリ
毎年四月九日伊勢ノ神衣祭ノ節ニ初生衣ト
云テ織リテ奉ルコト古ヨリノ例ナリト云此
家ニ傳タル舊記ノ文ニ云々用村服部之ニ字
稱神目代云々ト載サレタルヲ以テ考ルニ此赤
幡村ノ神主ニ神氏有リ此神服部ヲ省テ稱号
トセルニハ非ナレカ但シ今ハ伴姓ナリ
郷ニ桑田ト云アルモ布帛ヲ織ル科ノ蚕養ノ

桑田郷

桑田十ノ力マ夕此郡ニ畑八田十ト云村有リ
此モ服ヨリ出タル名ナランモ知ルベカラズ
姓氏録大和國ニ服部ノ連天御中主命十一世
孫天御杵命之後也ト有リ主計式ニ豊前國調
綿細十七疋自餘翰絹綿ト云ト云見エタリ
吾友神宗定ハ今寒田ト云村有テ本桑田十ル
ヲ桑ヲ漢音ニサウト云ヨリ訛リテサワタト
云ハ非ルカト云リ如何アラハ官幣官傳記
ニ神領桑田郷八内馬上田一町三月田一町ト

大野郷

見エ長光古文書ニ御本山若林山者桑田郷内
計也ト見エ又宇佐官大鑑ニ築城郡桑田郷田而
六十二丁六及四至東限赤幡社南限傳馬寺境
西限船迫峯北限魚瀬大路ト有ルニテ此郷ノ
大概ハ知ラレタリ但シ赤幡社ト有ルハ今ノ社
地ニ非ス本山ニ鎮座シ時ヲ云ハサテ不詳
築城村ノ南東ノ方ナル中原ト云處ニ王野ハ
幡官アリ王ハ大ヲ誤レルニテ古ハ此邊ヲ廣
ク大野郷ト云シ物ナルハシ
名義ハ豊後尾土
記ニ此郡所部悉

皆原野因斯名曰大野郡ト建武四年甲午官放
見エタルト同義ナリトシ
生會記細更試樂科并分ノ如ニ九日丙午分
野ト見エタルト此頃マテハ名ヲ存セシ
大角田ハ今叔天智天皇紀ニ築大野及椽二城ト
テ有リ
了ルヲ通澄ニ和鈔名云築城郡大野指不於其
伎其於其比訓通神武紀及訓其伎用及椽二字
者如紀伊之例也ト云リ椽ヲ伎ト訓ハ例ハ古
事記人氷椽是也至東野未嘗有之
檜木郷
今名廢レテ何所ト云知カ
大野郷之

下ニ云リ

寒田 檉原 本庄 下 傳法寺 松丸 深野 下上

香樂 上 若丸 極樂寺 真如寺 畑馬場

上河内 小原 日奈古 奈古 小山田 水原

畠中 耳師 重春云 耳師 兵部式 豊前國云

ト見エタルト引ヲ削ル 張 征前四十具云々 送太宰府

赤幡 別府 下上 壙末 築城 下上 八田 東 宇留

津高塚 推田 湊 白田 越路 坂本 寺

松石堂 有安 中村 松江 山本

以上四十七ヶ村有リ

築城驛

今モアリ 兵部式ニ驛馬五疋ヲ置キ見工夕

細敷天満宮

高塚村ノ瀨邊

有リ世ニ推田ノ天満宮ト稱フ

是也管相公太宰権師ニ成テ下賜ヒシ時推田

之瀨邊ニ船着テ上リ賜ヒケルガ敷ヘキ物參

ラセリ後神記ニ因テ舟細ニ惣ハセ賜ヘル御

像ヲ造リ殿舎ヲ建テ齊奉シ由縁起ニ見工夕

リ貝有翁ノ天満宮故實ニ筑前國袖湊ニ細輪

無リシカ里人取敢ス舟
細敷設之代リ敷

之天神有ル由見工

神社塔叢ニハ細輪ヲ細場トセリ

細豊前紀行

一 攝津國御影村同國須之浦ニモ細敷天神有

ト云ル夕リ御影村ハ御影ノ村ニモ有リ

若戸具大明神ハ同ノ御影ノ村ニモ有リ

傳法寺村ニ有ル字都官泉備云奉神天照大神

大己貴命手力雄命天治元年七月七日字都官

大和守信芳御清社領田河郡添田十三町筑後

國三宅郡安江在共一町

天嶮八幡宮 直谷堂 聖田 大己貴命 奉神 天照大神 大己貴命 手力雄命 天治元年 七月七日 字都官 大和守 信芳 御清社 領田 河郡 添田 十三町 筑後 國 三宅 郡 安江 在 共 一 町

湊村ニ有リ按スルニ殿河尾土記島段郡八幡

神社ノ条ニ神護景雲三年九月太宰神主阿部
元正五畿七道各置誓田先君官舍故此又誓田天
皇旧跡也云事見エタリハ毎國ニ八幡
宮ヲ建テシモノト云レド國史ニ見エテハ
ハ洩サレタルニソアラム如斯ク其ハ幡居ハ
我豊前ニモ宇佐官ハ座トモ別段ニ建ラレ
ヘキナリ其ハ何レノ官ソト云事詳ニハ知難
クド何ハ幡宮某ハ幡官ト称スカ甚多キ中
ニ天幡ハ幡官ト云ルガ圖別ニアリ是其官ト
ルヘク所思エ我豊前ニテハ下毛郡高瀬村ニ

天幡ハ幡官ハアレド此ノ溪村ナリソ銷古
社地トハ見エメル豊日別官縁起官幣大神神
郡溪ハ幡官溪之葦幸徑路ノ余云假宿於繁成
備神侍
赤幡ハ幡官赤幡
赤幡村ニ有リ古クハ本山ニ在シラ中昔今ノ
甲山ニ振奉リテトシ宇佐官大鑑ニ赤幡社田
十一町本田中不浮免七十ト云テ見エタリ備
本ノ西麓ニ捨字ト云フ竹有リ往昔ヨリ其教
損益無シト云リ赤幡
飯盛権現

寒田村。有川都宮家譜云祭神村上天皇
十二姬官兼家公道兼公御母也又治元年四月
宇都宮大和守信房等之
重春云大日本史皇女列傳。村上天皇。八皇
女十柱。歷々不中。保子親王。下申。奉此八根
政兼家公。下嫁。賜七子。又兼家公傳。二子。八藏
人直兼。為帝所昵。下見。土夕。八十二姬宮。下云
七軍家公道兼公御母。下云。七。誤。十リ。又軍家公
直兼公。素。下リ。御兄弟。二。七。御。下。又。下。又。下
都宮公。個傳。其先。出。自。直兼。直兼。四世孫傳

小栗園為宇都宮座主子孫因氏為下見エタレハ
直兼公之母。名。兼道公。祭。ル。十リ。サ。大鏡
太政大臣道長ノヲトト御母後四位上行撰
津守右京大夫殿藤原中正朝臣之女十リト有
リ直兼公ト道長公ノ御兄弟十リカ母名同
金ヤ異十リヤ
法蓮寺
岩九村。有リ梅川詔録云築城郡岩九邑有古
刹山曰舊城寺名法蓮相傳係法蓮和尚年闡之
場或曰明應年中之開創予亦不詳此二者孰是

天徳寺（即永元寺） 上本庄村（即） 截山（即） 禪師之闕基（即） 十川（即） 宇都宮

永ノ菩提所ニテ位牌ナシテ寺ノ南ノ高キ

処ニ宇都宮ノ御蹟ト云アリ

金剛寺（即） 上軍城村（即） 有リ應永九年（即） 鐘有リ今ハ京都

御里田村天満宮（即） 懸ハ牛膝立（即） 女（即） 和信（即） 小所

寒田川（即） 大池（即） 推田（即） 濱ニテ海ニ入ル

水際真河内（即） 小池有リ清水甚深シ是

水際有リ水原村廣嶮山之腰ニテ岩丸川ト合

流ル

岩丸川

大場山ノ行曲リト云處ヨリ出テ坂本村ノ下

真如寺川（即） 下ヨリ流シテ推田濱ニ出テ海ニ入

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

川

水渾真河内山十リ松江浦ニ出テ海ニ入ル

松江瀆

豐前事跡考云此浦ノ鱸魚味甚美十リ故ニ松

真江ト名ク出雲國松江ノ鱸魚ニ名産十リト云

蘇東坡後赤壁賦云今日薄暮舉網得魚巨口細

鱗狀如松江之鱸木竹綱目云鱸出吳中松江尤

次盛

三松瀆

推田村ニ有リ或人安岐溪ハ此瀆也ト云フ附

會之說也リシカ此ハ豊後十リ事疑フカカテ

傳法村村楠木

甚々古木十リ六寸十圍ニ尺有リ字佐官一邸

殿造管之時此木ノ本ニテ午芥初ノ式アリ早

佐官寺造管日記云一殿杜初豊前國築城郡傳

法寺河内御墾所之楠在之供奉役人等官行

事三人ト少官司光世惣弁官永房左執行

親身祝毘沙童也推祝頭書生御杖人

三人陣道長御前書生若官神主三人

陽陽師推陽陽師太々工大神夏内總大

工滿助引頭

一 帛額九緋御供承祭科并柴摺布酒肴者廊代古
 田大炊助種俊勤其役畢
 一 当日臨時御殿二序造之以檜葉葺之大扉一字
 三 間東向若官一序三間南向先以竹麻奉
 清靈水之後令清祝大工鑊等也杜之御前之櫛
 木三鑊代始之其後酒盃也應永廿五年戊辰八
 月廿七日卯刻初之儀式大概如斯

 重香云身觀儀式大嘗官條云箱實下高寧
 酒造云而殊内院科材向卜食山即祭
 之役夫以之洗掃承卜
 新有儿是松始也

早都宮鎮房基

村有川天正十八年、碑文了り此人、

 下

大野小辨基

下番樂村之山上、有川是、

 田家、臣、三、六

早都宮卜戰事、時高橋平太夫等卜討死也、
 人十り此合戰、土人、

 峯、合、戰、卜、云、委、三、名、八

茅切山城跡

本城村有川早都宮記云民部少輔早都宮鎮

房入日常陸介法號曰長甫嫡子稱三郎諱朝房
先祖曰大和守信房粟田園白直軍五代裔也又
治元年為豐前國守復職居於寧城郡成井鄉文
曆元年八月二日信房卒壽九十九歲其子曰景
房子孫相統十八世而至鎮房天正十四年日向
國有土持其者致大友宗麟而屬薩大大友起兵
擊之鎮房援之將出兵請命於豐臣公々以仙石
權無備而將擊薩大大友仙石津
等無利退保村內島津系勝圍成甚危此時鎮房
有病不能援同十五年三月豐臣公起大軍自將
擊島津三月十五日至於小倉島津引兵而退公
進軍至千府內鎮房有病不能從乃使其子爾三
郎朝房後軍五月七日島津降九川平豐臣公以
伊豫國封朝房印書以賜之朝房拜之歸告其父
鎮房曰自後島羽院賜勅及義朝義滿兩府授教
以來豐前為我封國願領此國伊豫非所望也朝
房不得已以鎮房之言告毛利小三郎後稱一歧
守勝信小三郎以朱印納之於公七月三日公歸至千小
倉命以豐前國全畀田川兩郡封毛利勝信以京
都仲津築城上毛下毛早佐九六郡封暹田甲斐

母於早都宮父子無所封朝房諱之勝信勝信曰
当居我封内侍後日而已乃以田川御赤御自土
樺原成光三村與之於朝房七月九日去城并城
移于赤御甲斐守以大村助右衛門為留後居于
寒田溝口之宅數年之朝房與其父諱曰我輩幽
居于此竟無毛利之麾下也必多勇士豈可無所
而而此中亦同折哉須逐出大村助右衛門保故
城里田系改則唯死戰而已鎮房從之而率其士
卒逐助右衛門保城并城守之十一月毛利輝
元使勝間田秀六在工門率兵援里田其兵相合

九二万人陣於岩丸山朝房伏兵于谷中里田大
野小辭為先鋒勝間田秀六在工門為大將長政
進兵上山伏兵起左右突敵里田兵陷深谷敗
死者九八百六十四人城無塩田内記擊十并殺
之秀六在工門為新貝次郎所斬長政敗血唯其
八騎遁

取并谷物諸云大野勝又討死シ本陣之前
後左右敵兵滿タリ長政今ハ叶ハシト
西向テ道退ク其勢僅ニ十騎バカリ前
後左右ニ楯方池永進自川渡邊之若者共
名得タル楯方池永進自川渡邊之若者共
謀ヲ慕追掛タリ中ニモ渡迎其十郎彼子
之太力岡カシ谷ヲ迎テ向ヨリ討テ力
カニ里田殿舊恩之者トヲオシキ侍七八

長政迎之預命諸士饗給經營鎮房後臣松田小
吉時十六歲在席次於是諸士振鋒殺鎮房於席
上鎮房起所手殺凡十九人終死實天正十七年
己酉四月二十日也是日朝房過小柴驛肥後地
伏兵下起殺朝房後者皆死孝高至城并召其老
臣池永善允工門告曰鎮房又長甫及女弱輩無
所罪雖然有公命可至於斯乃相率而歸朝房夫
人有所懷故竊以待女代之朝房有二女遺腹之
子為男名鎮房至于中津後臣之教其姓名不詳
曰渡辺其十郎重春云早都呂國車記ハ渡辺下
京同其十郎ト見エタリテ

京系ハ其吉郎亦名其十郎ト有リ右京進ハ
古表臣ノ官司ニテ月ノ願之城主トナリ年都官
家ハ八層シタリキ

曰松田小吉曰遠藤吉兵衛曰神崎三郎右衛門
曰遠藤源兵衛曰石井清右衛門曰中野次郎右
衛門曰權大官司右衛門曰津田其左門曰小
塚大内藏曰碓井藤内曰野田新助又云小塚則
松白河屋那沼橋本之五人在後臣之列ハ其
城并谷物詰云城并ノ侍二十三騎龍ノアトタ
ル勢ニ寄半膳ヲヒヤシサツト一度ニ道散レバ
松田充馬之助大者揚我等故郷ニ立歸リ籠城
セシカ為切技タマヘヤトテ門ハ貫木ヒキノケ
道去タリ相殘ル城并ノ侍大勢透間無ク討テ

掛ルヲ得夕リヤチー卜死物枉ニシハニ廿
ハテ戦ニシニ素肌之働カシクカリ泉ノ外ニ
テ二十三騎討死ス
本朝武林傳云城井某把成井谷千壇成以拒如
水如水出於軍圍攻之後藤又兵衛野村大學等
爭進故入城中為其地也若嶼積壓而奇正夫不
可列也城兵放火燒殪人若干也終不利也而欲
退避軍士城井後銳卒出戰其勢不可当如水軍
隨干陷地重危後藤野村為後殿敵其是後藤着
程々然也羽織大呼日後藤何不死哉怯弱可以
笑利兵急迫里田軍大亂里田美作里山備後等

血戰而得收軍他日如水之和以其女嫁成井々々
為述盛烟之礼至中津如水豫謀便勇士救之成
井之後臣驚亂入管中戰悉死
重春云里田ノ女成井ニ嫁ス卜云ハ誤也
宇都宮記之視ニ後ハシ
或記云豐前一万五千所中官領之内三百三十
三所為中佐神領又九百餘所其親族十六人半
都官家譜云当累下賜綸旨鳴
今度九州軍被相鎮教度軍切達敵聞九州之
武將救許并豊前四一万五千所内九千七百
廿余所可令自領者也旧領本々所者可任先規

事 綸首被 仰出候 其旨令 存全仁情 可被令
静謚仍 執達如 件 推守納 吉親利
文治元 乙巳九 月五日 早都宮 大和守 殿
賴朝公 三リ当 家賜 九州之 殘黨悉 被捕鎚 之奈智 仁勇之 至感不 斜
因茲豐 前守護 職加後 勘所也 全可被 静謚仍 狀
如件 建久六 年五月 十六日 早都宮 大和守 殿

元山城趾 同引何
赤崎村 下リ 城主未詳
洲上寺城趾
同村 有山城 未詳
野中城趾
八田村 有万田 左近居 儿 早苗津 之城主 賀殊
外記之 旗下十 十リ
別府村 城趾
別府太 郎居 儿 天正之 頃 八里 田家 旗下時 枝
平太夫 居 儿

極樂寺村城趾

應永之頃塩田弥十郎同色部居上北野

大平城趾

寒田村有リ早都官ノ把城也今早都官ノ屋

敷跡有リ洲ノ大武ノ早都官ノ屋

松丸村城趾

早都官鎮秀之塞ニ築キシ十リ湊土居十下今

元存上ノ下ノ十八日大早都官ノ屋

傳法寺村城趾

傳法寺共部大輔貞隆居ル城井之塚也

塩田城趾

西八田村有リ元曆ノ頃緒方三郎築キ一族

賀来太郎惟義ヲ置ク其白リ賀来氏世々守ル

鳥越山城趾

古中村ニ下リ中村某居城

高塚村城趾

直衛藤氏居城

小川内城趾

初本庄村ニ下リ城主不詳

堂山城趾

有リ城主不詳

本庄村ニ有リ城主未詳

勝山城趾

本庄村有リ城并之出城也

真知寺村城趾ニケ所

何レモ城主不詳

古戦場

天正十五年黒田景昇毛利景之討午早都官卜

合戦下リ知公岩丸七ナ水原村ナ廣幡

山ヨリ奉尾ノ方ニケ城并本城ニ籠ケル地

討十川先陣黒田景之將大野十年正重討死セシ

所ヲ白岩ト云今總ニ一片之碑有リ土人ハ并

堂ト稱ス二陣毛利景之將勝間田秀六左衛門

討死セシ所ヲ市道ト云土人勝間田越ト唱ヘ

リ



本村一有、城主亦併

勝山城

本城、城主之出陣也

直如寺、城主之出陣也

直如寺、城主之出陣也

古戰場

平澤、同家、先利、原之、新、平、澤、都、官、

格、取、可、也、所、由、前、不、定、注、入、却、間、田、庭、不、斷、人

堂、不、斷、人、二、哲、子、世、家、之、所、領、間、田、亦、不、斷、所

所、由、前、不、定、注、入、却、間、田、庭、不、斷、人

